

キャンプ砂防2017 in月山

～現場体験、地域体験等を通じ砂防事業と地域の暮らしを知る～



西川町
志津地区

国土交通省では、砂防や防災を学ぶことに関心がある大学生等を対象に「キャンプ砂防」を全国で実施しています。東北では唯一、新庄河川事務所のみで開催され、今回は4名の学生が参加しました。8月29日（火）には、寒河江川砂防出張所管内の現場体験に訪れ、西川町志津地内で現在実施している掘削工・ブロック積工の「無人化施工」の技術などについて学びました。

「キャンプ砂防」
ってなに？

砂防関係事務所等における就業体験や中山間地域での生活体験を通じて、砂防事業の役割や防災対策のあり方、その地域が抱えるさまざまな問題について学び、砂防関係事業に関する理解を深め、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的としています。



▲志津の滑落崖を前にし、熱心に質問をする大学生たち



▲業者の方から地質についての説明を受けます



◀集水井を見学

集水井（しゅうすいせい）

地すべり区域で、地下水が集中している付近に縦井戸を設置して、地下水を集水及び自然排水させる井戸のことをいいます。

むじんかせこう 無人化施工とは・・・？



遠隔操作

オペレーター

無人のバックホウを動かします！

直接目視による無人化施工
（直接操作方式）

オペレーターが、遠隔操作方式建設機械を直接目視しながら遠隔操作する。

この現場は、志津地すべり
中沼沢溪流保全工事です

工事作業員の安全確保のため、床固工の掘削工及びブロック積工について「無人化施工」を実施しています。

